

2022年度国際教養学部 FD 活動方針・活動計画

1. 2022年度FD活動方針

2021年度から始まった新カリキュラムと旧カリキュラムの並行も2年目を迎え、引き続き授業の円滑な実施を継続することに加え、以下の3点を活動方針とする。

まず、カリキュラム・ポリシーに基づいた学修成果を多角的に把握し評価するための第一歩として、国際教養学部短期海外プログラムの学習成果について検討することとする。現地留学、及びオンライン留学の成果や課題について、学術的な観点も含めて振り返り、教員同士で確認しつつ、より充実させるための検討をする。

二つ目は、昨年度1年間をかけて検討を経て改正した3つのポリシー、とりわけディプロマ・ポリシーに対応した教育の達成度について引き続き評価法を検討していく予定である。

最後に、学生が獲得した能力が卒業後のキャリアにどう生かされていくのか、について議論を始める。

2. 2022年度FD活動計画

上記活動方針に基づき、以下の活動を計画する。

① 短期海外プログラムの学習成果の検討

国際教養学科の「実践知形成科目」である短期海外プログラム（2年生対象、留学先はアリゾナ州立大学）は、2018年・2019年に現地で実施、2021年はオンラインによって実施してきた（2020年はコロナ禍により中止）。この3回の経験を通じ、学生の学修成果に関する知見を得られるようになったことから、その成果について、プログラム担当教員による学問的な分析も含めて知見を教員間で共有し、議論する。それを踏まえ、より良いプログラムに向けて努力する。

② ディプロマ・ポリシーに対応した教育の成果検討を継続

昨年度、一期生を送り出すにあたり、卒業論文を学部のアーカイブとしてデジタル保存し、同時に各ゼミから優秀卒業論文を選出、紙媒体として学部生に公開する体制を整えた。また、教員間で卒業論文の紹介をFD研究会として行った。今年度もこうした活動を引き続き実施すると同時に、卒業論文紹介のFD研究会においては、学生の卒業研究紹介にとどまらず、論文指導の方法やゼミ運営の工夫について議論する場となるよう、より充実したものにしていく。

③ キャリア形成に資する教育のあり方について検討を始める。

学生が獲得した能力が卒業後にどう生かされていくか、について検討するために、キャリア教育の成果を検討する場を設ける。検討の出発点として、卒業生の進路についてデータを整備し議論することから始める。

以上